

日野市立教育センター一報

教育センターだより

第25号 平成23年11月28日発行



平成23年10月27日
教育センター 調査研究事業中間報告会

日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分



教育センター調査研究中間報告会を開催

日野市教育委員会 教育部
教育指導担当参事 大野正人

10月27日の午後、教育センター調査研究中間報告会が開催され、多くの皆様のお越しをいただき、誠にありがとうございました。また、研究に協力いただきました関係諸機関のみなさまに感謝申し上げます。日野市教育委員会の推進事項の四本柱である「ICT活用教育の推進」、「特別支援教育の充実」、「幼稚園・保育園・小・中学校の連携」、「生活指導の充実」に関係した調査研究が報告されました。

ICT活用研究、理科教育推進研究、郷土（ふるさと日野）教育推進研究の中間発表につきましては、本日より25号におきまして概要報告を掲載いたしておりますので、ご一読いただければ幸いです。また、発表内容や有益教材等については、教育センターのサイト(<http://www.hino-tky.ed.jp/center/>)におきましても閲覧が可能となっておりますので、各園・各校において活用していただければと思います。

今年度のひのっ子教育21開発委員会では、小学校学習指導要領完全実施に伴い、外国語活動について中学校との連携の視点に立って研究が進められております。

また、研修部を中心としたセクションにおきましては、教員の大量退職に伴う新規採用教員の増加から、教員の資質・能力の向上に向けた研修全般に力を入れ、巡回授業参観などを通じた指導・育成活動を行っております。

教育相談部では、電話や面会による様々な教育相談を行い、相談者の心配や悩みに傾聴し、解決の糸口を地道に探しているところでございます。

適応指導教室「わかば教室」では、コミュニケーション能力の育成指導や学習支援を行っております。また、e-ラーニングによるインタラクティブスタディ、在宅によるe-ラーニングなど、幅広く行っているところです。

日野サンライズプロジェクトとして学校巡回訪問相談などの登校支援活動につきましても、今年度から実施いたしております。

来年度は、中学校におきましても学習指導要領完全実施となり、小中学校合わせ新教育課程となります。今後、必要となる諸事項において、調査研究部を中心に活発な活動がなされることを期待いたします。

今後とも、文字どおり研修の中核として、センターにおける研究活動と学校における教育実践とが連携した中で推進され、日野市の園児・児童・生徒たちの意欲喚起、資質・技能の向上に貢献されることを祈念いたし、あいさついたします。

教育センターの活動から

教育センターは、「調査研究」「教員研修」「教育相談」の3部があり、8係が設けられています。本号では、7つの係の活動のひとつを紹介します。



新しく更新するICT機器
(ICT活用研究委員会, 教育経営係)



理科、多摩動物公園・スキルアップ研修
(理科教育推進委員会, 教科等教育係)



指導者の育成・郷土教育研修
(郷土教育推進委員会, ふるさと教育係)



外国語活動研修・マイクロティーチング
(ひのっ子教育21開発委員会, 基礎調査研究係)



若手教員育成研修(2年次)・授業観察
(研修部, 研修係)



日野市教育相談室・電話相談
(教育相談部, 一般教育相談係)



わかば教室・秋の遠足
(教育相談部, 学校生活相談係)

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「ICTを活用した実践的な研究」「理科教育推進の研究」「郷土教育推進の研究」「ひのっ子教育21開発委員会研究」の4研究を関係機関のご協力の下で進めています。10月に前3者について中間報告会を開きましたが、以下11月現在の研究の進捗状況や研究成果の一部をお知らせします。

1 ICTを活用した実践的な研究（ICT活用研究委員会）

教育経営係

日野市のICT活用教育の充実を目指して

(1) ICT機器の入れ替えについて

日野市では、ICT機器が導入されて5年を経過しました。リースの入れ替えの時期となり、6月19日に活用研究委員会において機器の入れ替えについて検討し、具体的な計画を決定いたしました。新しく更新するICT機器は次の通りになっております。

①小・中学校において校務用と授業用のパソコンを一体化し、一台とする。

*USBキーをさすと校務用、はずすと授業用となる。

②小学校においては、プロジェクタ&スクリーンセットを使用していたが、大型モニター導入に伴い、必要性が薄れたために、小型プロジェクタ4、5台を設置する。

③書画カメラについては、パソコンを経由しないと使用が出来ないことや新しい機能が充実した機器が登場したことを踏まえ、新機能の書画カメラを設置する。

④小・中学校においては、職員室プリンタが現在1台のみで通知票の印刷が集中してしまうため、モノクロレーザープリンタとスキャナーを整備したデスクトップパソコンを設置。

⑤現在の「緑のUSB」は容量が小さいため、使用頻度が低下していることから数を減らして容量の大きいものにする。

⑥小学校6校、中学校3校のパソコン室を児童生徒の人数に対応したものに整備する。具体的には、40台+αとする。

(2) 実践事例集の追加について

新学習指導要領では、各教科にわたり興味関心を高めたり、情報を収集したり、まとめ・発表ができたりするICT機器の活用が位置づけられています。そのため、教員が授業で活用できる実践例が益々求められています。ICT活用教育を推進して6年目を迎え、「活用から成果」へと求められている現在、実践事例の追加をさらに充実させていくこととなります。

(3) ICT審査マークについて

ICT審査マークが導入され4年目を迎えています。平成22年度においては、「セキュリティ部門」において全校が取得しました。「授業部門」「校務部門」においても全校の取得が期待されています。ICT活用教育推進室と協力しながら、今年度は3部門の全校取得を目指していきます。

(4) 中間報告会について

10月27日にICT活用研究委員会の中間報告をしました。報告では、今年度の方針や組織体制を確認するとともに、文部科学省から出された「教育の情報化ビジョン」と「日野市におけるICT活用教育における新たなビジョン(案)」を基に21世紀のICTの「学びの姿と環境整備」について説明しました。特に「一方向・一斉授業」から「個別学習」「協働学習」への授業の質的な転換を示し、授業改善の方向性を提示しました。



協働学習

2 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

理科の授業力向上を目指しての研修会

（1）夏の実技研修会

夏季休業日を中心に、実技を中心とした研修会を行っています。教科書に出てくる観察や実験を実際に行ったり、市内の諸機関の専門の方から学んだりする研修会です。

①理科実技研修会：コア・サイエンス・ティーチャー(CST)、小教研理科部の支援

7月28日(木)・全日：A区分では「電気や振り子、金属・水・空気と温度、薬品の扱い方」を、B区分では「観察カードや顕微鏡の使い方、天体や気象」の学習を中心に、基本的な操作を交えながら、教科書の流れに沿って実技研修を行いました。

7月29日(金)・午後：6年生の新しい単元「生物と環境」の実習と、「理科ねっとわーく」を中心とした、デジタル教材の学習での活用について研修を行いました。

②企業による研修：富士電機株式会社能力開発センター…8月1日(月)・全日

午前は「発電と電気の利用」について、企業の技術部門の方から発電のメカニズムや活用について例を挙げての講義がありました。その後、富士電機で実際に活用している「光電池」や「燃料電池」の見学をしました。午後は「電磁石のはたらき」について、実際にモータ作りを行いました。モータの回る原理や実際に使われている場面の紹介もありました。

③昆虫スキルアップ研修会：多摩動物公園…〔4月22日(金)・午後〕8月23日(火)・全日

午前は、昆虫館でチョウを中心とした昆虫の生態観察を行い、その後、アゲハチョウの採卵から成虫まで、それぞれの時期での観察や飼育方法について研修をしました。

午後は、動物園の草原で昆虫採集をし、捕まえた昆虫の仲間分けや飼育についての研修を行いました。また、チョウの鱗粉の紙への転写も実習しました。



（2）コア・サイエンス・ティーチャー（CST）

科学技術振興機構の事業の一つとして実施しています。本市では、2名のCSTがおり、別に1名がCSTの研修を受けています。夏季休業中に研修の講師をしました。



本市のCSTの1名は加配教員として配属されています。教員の理科の授業力向上、各校の理科教育充実のための加配です。学校を訪問して理科の授業についての指導や必要によっては授業支援を行っています。学年等での教材研究等、学校からの要請に応じて派遣されます。楽しい理科授業実現のため、多くの学校でご活用ください。

（3）映像による「日野の自然」

昨年度、「日野の豊かな自然を教材に」という思いから、多摩平にお住まいで、長年日野の自然を映像に撮り続けてこられた井上録郎氏のご協力で「日野の生きもの－四季－」を作成しました。今年7月に日野市立の幼稚園、小学校、中学校にこのDVDを配布しました。各校でご活用ください。

3 郷土教育推進研究委員会

ふるさと教育係

指導者の育成と教材の発掘

(1) 今年度の重点課題とフィールドワーク

身近で具体的な郷土教材を活用すると、よく分かる楽しい授業が実践できます。その地道な実践を継続することにより「ふるさと日野」に誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成することができます。私達、郷土教育推進研究委員会では「身近」「具体」「地道」「継続」をキーワードに、7年目の研究を推進しています。今年度の重点課題の一つに研究成果の「普及と啓発」があります。

郷土教育の普及・啓発のためには、実践力のある指導者の育成が必要です。そこで、毎年夏期休業中に「フィールドワーク」を実施し、教師自ら日野のよさを理解し、教材化の視点を探り、教材化の方法を学ぶ一日研修会を開催しています。今年度は8月2日に「高幡地区の歴史・自然を訪ねて～高幡不動と潤徳小学校～」のテーマで実施しました。

(2) フィールドワークで新たな教材の発掘

①愛宕山の黒松（高幡不動裏山）

太平洋戦争末期、航空機の燃料不足を補うために、軍部は全国の農山村に松根油の供出を割り当てました。愛宕山（高幡城址）の黒松には、樹液（松脂）を採取した痕跡が残っています。昭和20年には増産のため、潤徳国民学校の子どもたちも勤労奉仕として、その作業に当たりました。子どもたちは家庭でも、桑の皮むきをしたり、ウサギを飼ったりしました。桑の皮の繊維は学童服となり、ウサギの皮は防寒用の軍服となりました。さらに、潤徳の子どもたちは三沢の地下工場の偽装のため芝張りにも参加しました。



②潤徳橋

現在のJA東京みなみ七生支店は、旧潤徳小学校の跡地に建てられました。戦後、潤徳小学校の児童数が増え、程久保川の南側に第二運動場を造成しました。拡張した校庭へ渡るため「潤徳橋」が架けられました。その校庭の跡地に現在の七生公会堂が建設されました。七生公会堂の隣りは、潤徳小学校開校時に校舎として使用された三沢村医王寺の墓地です。潤徳小学校発祥の地である医王寺は、現在、ガソリンスタンドとなっています。



③教材化の視点

「松根油（松脂）の採取跡」は、小学校社会科6年「戦争と人々の暮らし」で、国民学校の子どもたちの生活の様子から「戦争と国民生活」について理解を深める好教材となります。学校での勉強が勤労奉仕となり、子どもたちは、その内容に驚き、興味・関心をもって追究することができます。

「潤徳橋」は、潤徳小学校の歴史や当事の日野（七生村）の発展を調べる好教材となります。また、程久保川には「潤徳橋」の他、「後畠橋」「寺が背戸橋」「上郷橋」等があり、橋の名前の由来を調べることにより、昔の町の様子や変化を理解することができます。社会科3・4年「さぐってみよう昔の暮らし」「昔から今へと続くまちづくり」、総合的な学習の時間「高幡・三沢探検隊」等で教材化することができます。教室から飛び出し、郷土教材の活用に挑戦してください。

※参考文献 ・昭和48年「潤徳百年史」潤徳小学校 ・平成10年「日野市史 通史編四」日野市

4 ひのっ子教育21開発委員会研究

基礎調査研究係

「小学校外国語活動と中学校英語の円滑な接続」を目指して

今年度の「ひのっ子教育21開発委員会」は、日野市内の小・中学校から25名（小学校17名、中学校8名）の開発委員が集まり、講師として上智大学外国語学部英語学科准教授の和泉伸一先生のご指導の下で実践的な研究活動を実施しています。

本年度から、小学校では新学習指導要領が完全に実施されています。新学習指導要領では、5・6年生に外国語活動が導入されています。そのためにも、研究テーマを「小学校外国語活動と中学校英語の円滑な接続」として研究を進めています。

そして、今年度の活動の重点は、小学校外国語活動と中学校英語の円滑な接続という視点で、小学校・中学校の交流（教師及び児童・生徒）の機会を継続的なものにしつつ、昨年度の実践をもとに日野市外国語活動・外国語の在り方について開発・研究をすることになりました。特に、指導法の工夫・アクティビティの工夫、教材・教具の工夫、評価の4つの視点で、実践的な授業を繰り返し研究を深めています。経過としては以下の通りです。

- 4月25日 今年度の研究推進の方針説明
講演「小・中連携の取り組みの充実を」講師 日野第三中学校 石村康代校長
- 5月31日 研究授業 Bブロックテーマ「小・中の円滑な接続を図る外国語活動（英語）の授業作り・指導方法の工夫」 授業者 日野第三中学校 主幹教諭
- 6月23日 マイクロ・ティーチングの模範授業について グループ討議
- 7月7日 マイクロ・ティーチングの模範授業 A, B, C, D各グループ授業を実施
- 9月20日 研究授業 Cブロック「小・中の円滑な接続を図る指導計画、アクティビティの工夫」 授業者 平山中学校 教諭
- 10月13日 研究授業 Aブロック「小学校外国語活動の評価について」
授業者 日野第一小学校 教諭
- 11月10日 研究授業 Dブロック「小学校外国語活動の教材・教具の工夫」
授業者 旭ヶ丘小学校 教諭



今後の予定としては、2月16日（木）日野市立日野第一中学校の食堂で「ひのっ子教育21開発委員会報告会（発表会）」があります。本年度は、年間を通じてご指導いただいた上智大学准教授和泉伸一先生のご講演を予定しています。

また、本年度の開発委員会は、小学校外国語活動、中学校英語科の授業実践例とマイクロ・ティーチング模範授業の実践事例をまとめ、日野市立小・中学校の教員のみなさまにお渡しすることを目指しています。

II 研修部

教職員研修係

教育委員会の研修事業を支える研修部の活動

教育センターは、日野市教育委員会学校課が計画した日野市立幼稚園、小・中学校教職員の研修事業を進める際に必要な補助的業務を行っています。その主なものを紹介します。

(1) 教科専門研修全体会

7月21日(木)市民会館大ホールで、教科専門研修全体会が開催されました。教育センターは、教科専門研修全体会の開催に向け、立看板を準備したり、受付名簿を作成したりしている他、当日の受付、参加状況の把握等を行っています。



教科専門研修全体会



入場の様子



センター所員の受付の様子

特に気を遣うのは午前の部の入場です。日野市の教職員は約630人います。午前9時半の開場から午前10時の開会までの30分間で、混乱なく入場できるようにするため、教育センター全所員で取り組んでいます。

(2) 若手教員育成研修(2年次)・授業力向上研修Ⅰ(3年次教員)

8月24日(水)日野市立日野第一中学校を会場に、若手教員育成研修(2年次)が午前の半日、授業力向上研修Ⅰ(3年次教員)が午後の半日と、半日単位で開催されました。

若手教員育成研修(2年次)は9グループ、授業力向上研修Ⅰ(3年次教員)は10グループに分かれ、それぞれ一学期に実践した事例を発表し、学習展開の方法や教材教具の工夫等についてグループ協議を行いました。



実践事例の発表

センター所員は、午前・午後の一日、グループ協議に参加し、発表事例への指導法や児童生徒理解の悩み等について指導助言を行いました。



指導助言者を務めたセンター所員

(3) 教育課題研修会

夏季休業中に実施された、人権教育、外国語活動、特別支援教育・理科実技・郷土教育・昆虫スキルアップ・教育相談の各研修会の業務も教育センター研修部が行っています。各学校からの受講申し込みをまとめ、参加人数の把握や、受付名簿の作成、参加状況の把握等を行いました。

(4) 若手教員育成研修(1・2年次)、授業力向上研修Ⅱ(4年次)の授業観察及び指導



若手教員育成研修(1・2年次)、授業力向上研修Ⅱ(4年次)の授業観察及び指導も教育センター研修部が担当しています。

左の写真は、4年次教員が6年国語「文の推敲」の授業をしている様子です。授業効果を上げるために自作教材を準備し、子どもたちに推敲の必要性を感じ取らせる授業を意欲的に実践していました。授業後の懇談で、文を推敲した際の訂正が子どもの負担にならないように配慮することや、具体的場面を説明した資料が小さかったのでICTを活用するとよかった等アドバイスしましたが、6年生の子どもたちをよく惹きつけていた1時間でした。この経験を今後生かし、大きく成長してくれることを期待しています。このように研修部は若手教員の指導力育成に尽力しています。

Ⅲ 相談部

1 一般教育相談

一般教育相談係

日野市教育相談室 ～確実な適応を目指して～

(1) 前期における活動状況

教育相談室の相談活動は、電話や来室による一般教育相談、子どもこころの電話相談のほか、市内小・中学校教員が対象の研修会や関係機関との連携を図るための連絡会等の実施です。

今年度、前期（4月～9月）の相談活動は、合計で1223件でした。内訳は、日々の電話相談113件、来室や電話による継続相談59ケースで延べ1055件、子どもこころの電話相談20件、研修会・連絡会等の実施・参加は35件でした。

電話相談の結果、相談を継続させることになったケースが継続相談です。予約・来室が基本となりますが、様々な事情で来室できない場合、電話で相談を行うこともあります。この場合は電話面接として取り扱い、通常の電話相談と区別しています。なお、前期の継続相談59ケースの内訳は、前年度からの継続44ケースと前期中に新規受け付けた15ケースです。

(2) 研修の実施

<教育相談研修> 小・中学校教員対象（教育センター会議室）

主題 「子どもの不適応や問題行動等に応じた相談機関やその利用の仕方について」

- ・日 時 8月4日（木）9：00～12：00
- ・主な研修内容 (1)教育相談室の概要 (2)事例検討 (3)関係機関の紹介
- ・講 師 日野市教育相談室相談員5名及び嘱託員1名

教育相談室では、教育センターの教育課題研修会として初めて行い、21名の参加がありました。研修会は、参加者のアンケートを参考にした仮想事例のグループ検討・発表など、また、関係機関の案内資料の配布とともに、市の特別支援教育推進チームと発達支援室の責任者を招いて、事業を紹介していただきました。

<10年次経験者研修> 小・中学校教員対象（教育センター大プレイルーム）

主題 「保護者への対応」

- ・日 時 8月18日（木）9：00～12：00、13：45～16：45
- ・主な研修内容 (1)教育相談室の概要 (2)教育相談について (3)連携について
(4)教員役と保護者役によるロールプレイ (5)全体振り返り
- ・講 師 日野市教育相談室相談員5名及び嘱託員1名



市教育委員会の依頼を受けて、児童・生徒や保護者の理解、学校と教育相談室との連携等を目的に実施しています。今年度は11名の参加があり、ロールプレイ（実技）を中心に行われました。「教育相談について」では、講師による模擬相談場面を交えるなど、研修の充実を図りました。

また、教育委員会から小林邦子指導主事を招き、全日、研修の様子を見ていただきました。

（写真はロールプレイの様子）

2 学校生活相談

学校生活相係・わかば教室

— 不登校児童・生徒と適応指導教室「わかば教室」 —

学校生活相談係は、心因的要因やさまざまな状況によって不登校や登校しぶりの子どもたちを適応指導教室「わかば教室」で受け入れ、生活や学習の指導及び支援を行なっています。

児童・生徒の学校生活は、安全で、健康的で、明るく落ち着いた雰囲気でも過ごし、一人一人が意欲的に生活や学習に取り組めることが大切です。「学校生活相談係」は、その達成に向けた支援が使命だと考えています。しかし、現在の学校生活における子どもたちの課題はさまざまです。その複雑な課題に対して、学校と連携し、また諸機関・保護者とも関係を密にし、改善を図っています。

心のケア・学力向上・体力増進・社会性の育成等を図るため、一人ひとりに対応したきめ細やかな支援をしています。相談活動を充実させ、楽しい行事を行なう等、児童・生徒との人間関係を深め、その活力向上を図って、学校復帰を目指した活動に取り組んでいます。

(1) 学校との連携

「わかば教室」では、市内各小中学校と連携し、児童生徒の生活改善と学校復帰に取り組んでいます。そのために各学期に「適応指導教室連絡会」を設け、管理職の先生や担任の先生との話し合いを進める中で、指導方法を決めたり改善したりしています。また年間2回、市内の全小中学校を一般教育相談室及び登校支援コーディネータと連携し訪問しています。

(2) 『わかば教室』の行事について

「わかば教室」では、子どもたちの社会性や集団適応能力の育成のために、季節ごとに様々な行事を行なっています。毎学期の誕生日会・社会科見学・遠足・お茶の会・収穫祭（調理実習）・音楽会など、子どもたちとミーティングを深め合い、自主性を尊重しながら行事の計画を進めています。



(3) 適応指導教室「わかば教室」通級の状況

平成22年度	4月	30日	小学生	5人	中学生	10人	合計	15人
	9月	30日	小学生	8人	中学生	16人		24人
	3月	25日	小学生	11人	中学生	24人		35人
平成23年度	4月	30日	小学生	6人	中学生	11人		17人
	9月	30日	小学生	7人	中学生	29人		36人

日野市における不登校児童・生徒数は、毎年増加しています。その中であって、わかば教室から学校に復帰し、元気に通学している児童・生徒がいます。また、高校へ進学した生徒も殆どの子が元気に通学しています。学期・学年の変わり目は学校に復帰できる大きな機会です。小さな変容を大切にし、生きる力を育み、不登校改善、更に学校復帰へとつながるよう保護者・学校や諸機関と連携を図り、新たな不登校児童・生徒の発生も防ぐ努力を続けています。

<学校校生活相談 登校支援員>

学習支援・登校支援 e-ラーニングを実施しています

1 “わかば教室”の児童・生徒を対象とした e-ラーニング

月曜日 タイム1 中学生、タイム2 小学生

水曜日 タイム1 小学生、タイム2 中学生

☞ “わかば教室”へ見学に来た児童・生徒は、e-ラーニング体験ができます。

2 在宅（家庭）の児童・生徒を対象とした e-ラーニング

☞ 自宅でe-ラーニングを始めるには、まずは、在籍校に相談し日野市 e-ラーニング「ひのっ子学習システム」利用の手引きにそって手続きをしてください。

☆ 教育センター在籍の登校支援員と e-ラーニング担当所員が個別学習支援をしています。

<e-ラーニングシステム研修会実施>

—生活指導主任研修会 10月18日—

e-ラーニングを活用した学習方法や学習支援の方法等を市内小中学校生活指導担当主幹、主任の先生方が体験を通して研修しました。



<登校支援コーディネータ>

日野市の小中学校における不登校児童・生徒の状況を調査し、諸機関との連携を深めながら改善のための取り組みを行っています。本年度新設されました。以下にその状況を報告いたします。

(1) 取り組みの状況

- ・中学校の、教育相談・登校支援委員会に参加し復帰に向けた方策、対応の在り方を検討しています。また一般教育相談室とわかば教室との連携のための相談部会を設けています。
- ・学校や教育相談室との連携を深め、子ども家庭支援センターの支援の可能性を探りながら、不登校児童・生徒の事情に応じて適応指導教室（わかば教室）への入室を進めました。
- ・不登校傾向児童の増えつつある学校を訪問し、状況を調査し対応策の検討を行っています。
- ・市立病院・小児科との連携を図り、適応指導教室への入室や、学校での配慮事項等に生かしています。
- ・22年度に不登校状態から抜け出した児童・生徒の改善理由の調査を実施し、今後の取り組みに役立てていきます。
- ・教育相談室、わかば教室と市内小中学校25校を訪問し、不登校傾向の児童・生徒の状況把握や今後の手立てについて相談しています。その相談の中から、わかば学級入室の子供が増えています。

(2) 欠席者の状況（10月末現在）

30日以上欠席者	小学校	16名	中学校	84名	合計	100名
100日以上欠席者	小学校	1名	中学校	7名	合計	8名

教育資料・広報係より

教育センター・Web サイトの紹介

<http://www.hino-ky.ed.jp/center/>

当教育センターでは、学校へ必要な情報を随時提供できる“情報センター”としての機能の充実を進めています。

1 調査研究事業の成果の紹介

毎年、当センターでは、日野市内小・中学校の教育の充実のために、調査研究事業を推進していますが、その成果をWebサイトのPDFファイルで見ることができます。

また、ひのっ子郷土教育研究（郷土教育推進研究委員会）で発行された「郷土日野指導事例」（第1～6集）、関連資料集も同様にPDFファイルで見ることができます。

2 市内小・中学校の校内研究紀要の概要の紹介

日野市内の公立小・中学校においては、教員の実践的な指導力を高めるために校内研究を進めています。当センターでは、各校の昨年度の成果を概要にして紹介しています。また、教員や教育研究者の実践的な研究に役立てるために「平成22年度日野市教育委員会研究奨励校」については、各校の協力によりPDFファイルにして提供しています。



災害後の子どもたちの心のケア

センターWebサイトにて、教育相談室でまとめた、子どもたちや保護者の方たちへのケアの参考になる記事を掲載しています。

新しく購入した本の紹介

- | | | |
|---------------------------|------------------|----------|
| ・小学校外国語活動モデル事例集 | 直山木綿子編 | 教育開発研究所 |
| ・河原の石のしらべ方 | 「多摩川の石」編集委員会著 | 地学団体研究会 |
| ・水の郷日野 | 法政大学エコ地域デザイン研究所編 | 鹿島出版会 |
| ・有田式教壇研修の方法 | 有田和正著 | 明治図書出版 |
| ・楽しい地図入門 改訂版 | 日本地図センター編 | 日本地図センター |
| ・地形図の手引き 5訂版 | 日本地図センター編 | 日本地図センター |
| ・地形図図式の手引き 新版 | 日本国際地図学会 | 日本地図センター |
| ・教師のための不登校サポートマニュアル | 小林正幸・小野昌彦著 | 明治図書出版 |
| ・養護学校のコーディネーターが行った教育相談 2 | | |
| 発達障害を持つ子どもの不登校 | 橋爪秀記著 | 湘南社 |
| ・青少年のための自殺予防マニュアル 新訂増補 | 高橋祥友他編著 | 金剛出版 |
| ・危機への心理支援学 | 日本心理臨床学会 | 遠見書房 |
| ・発達障害のある子どものきょうだいたち | 吉川かおり著 | 生活書院 |
| ・写真で教えるソーシャル・スキル・アルバム青年期編 | ジェド・ベイカー著 | 明石書店 |
| ・「怒り」がスーッと消える本 | 水島広子著 | 大和出版 |

○本センター内教育図書資料室でご覧いただけます。また、市内教職員につきましては貸出いたします。電話、または校務支援メールでお申し込みください。交換便でお送りします。